

呑川レポート2010-5号 アシ(葦)植生と生き物たち

先ほど「日本のいい川シンポジウム」(表参道の東京ウイメンズプラザにて)に行って、夕方から用事が入っているので早めに帰ってきたところです。

工藤さんも来ていました。

学ぶことはたくさんありました。

前回のレポート「(呑川レポート2010-04)アシ原～改修工事の植生」で、(その6工事)「本村橋～道々橋」区間で「植生工事」が行われたことを報告しました。

そして、「古事記」などに描かれた当時の様子から、呑川にアシなどを植生する意義として、

1つには「日本の原風景」を再現することになる事をあげました。

それは景観的に「原風景」であるだけでなく、アシでわらぶき屋根をふいたり、ヨシズなど

生活用品に利用したりする「生活の原風景」でもありました。

「川」と「アシ」は、日本においては太古の昔から切っても切れない関係にありました。

次の視点としては「アシ原」が、「生命のゆりかご」になっていることをあげなければなりません。



ここは「東京港野鳥公園」ですが、美しいアシ原が広がっています。

水面に小さく見えるのは「カイツブリ」です。

小さく弱いカイツブリは、いつもアシ原のそばにいて、なにかあるとアシ原の中に入って隠れます。

アシ原は大切な隠れ場所・休憩場所なのです。

しかしそれだけではありません。



同じ場所が冬になりました。
アシ原はすっかり枯れ色になっています。

カイツブリは、春が近づくと、今度はアシを食いちぎって巣を作り始めます。
そうです、子供を産む準備作業です。
枯れたアシは水面に浮くので「浮巢」と呼ばれます。

「浮巢」はアシ原に隠れて見えにくいのですが、それがまた子育てを安全なものにします。

呑川にいるカルガモたちは、そんな巣材が無く、呑川で繁殖が出来ないため、春には「洗足池」や「洗足流れ」「多摩川」、もしくは近所の草地などに出かけ、繁殖してその場所が手狭になってくると、又呑川に戻ってくるのでしょうか。
呑川に、アシなどの植栽が行われれば、カルガモたちが呑川で繁殖をする大きな手助けになるでしょう。

さて、水鳥ばかりでなく、どんな野鳥がアシ原にいるか、「多摩川」に行きました。



広がったアシ原に、野鳥たちの鳴き声が聞こえます。

「ヒッ、ヒッ、ヒッ・・・」 セツカの鳴き声です。姿は見えませんがセツカが一番多くいるような気がします。

「ピー、ピー、ピー」と高いきれいな鳴き声があります。これはオオヨシキリかもしれません。

そのうち「ジュク、ジュク、ジュク」とおもしろい声が聞こえます。

見にくいですが、この写真のちょうど中央にいる、小さな小鳥から聞こえている気がします。

(よく見ると、アシの穂の先に止まっているのが見えます)

あまりにも小さいので、少しトリミングして拡大してみましょう。



ピントが悪くハッキリとはしませんが、これは「オオジュリン」です。

目を皿のようにして野鳥たちを探しましたが、鳴き声は聞こえるのに、アシ原のなかでそれを視認するのは難しく、その他には思うようには撮影できませんでした。

もちろん、アシ原に分け入れれば、野鳥たちはすぐ逃げてしまいます。
サイズの小さな小鳥たちを明確に捕らえるのは、5回や10回は通い続ける必要はありそうです。
しかし「多摩川」までは、すこし遠いのです。

そこで、これは1年～2年かかる撮影課題にして、比較的近いところにある「洗足池」に通うことにしました。



洗足池にも、わずかですがアシが生えています。
しばらくそこで見ていると、ゴソゴソという音がアシ原の中から聞こえてきます。
どうしても正体が見えないので、背を低くしてのぞいてみると、シジュウカラがいました。



ところが私のがのぞくと、シジュウカラはアシ原の中をどんどん奥に入って、見えにくくなります。

それでもアシとアシの間から、なんとか見続けていると、このシジュウカラはアシの茎の表皮をはぎ取り、そこに付いている白いものを盛んにつついて食べています。



こちらの様子に気がついて、シジュウカラが去ったあとを見てみると、これはカイガラムシです。

シジュウカラは、アシの茎に付いたカイガラムシを食べていたのです。

こういう姿を見たのは、私は今回初めてでした。

足しげく通った甲斐がありました。

こういう風に、野鳥たちがアシ原を良く活用しているのを目の当たりに確認しました。

アシ原には魚たちも良く集まり、えさ場にしたり、水の流れの速いときに避難場所にするといえます。

何かの機会に、そういう姿もぜひ捉えられたら・・・と思っています。



「本村橋～道々橋」区間で植生工事が行われて間もないのに、すでにアシの植生のそばにキンクロハジロが寄ってきています。

いずれにせよ、呑川にアシなどの植生を施すことの第2の意義は、アシ原が「生命のゆりかご」

という重要な役割をはたしていることだと思います。

-----from-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
